



子どもたちはぬれるのもかまわずに熱中

大物は獲れたかな？

和天山町竹田地区の寺町通りで6月3日から17日まで、初夏の訪れを告げる風物詩、「花しよぶ祭り」が開かれました。寺町通りや虎臥城公園に植えられた花しよぶは約3千株。鮮やかな紫や白の色合いが、訪れた人の目を楽しませていました。また、10日には屋台のテント村や餅まき、さんさん会「和」によるよさこい踊りなどが行われ大勢の人がイベントを楽しみました。神戸市から花しよぶの写真を撮りに訪れたという

初夏を彩る「花しよぶ」

生野新町区で6月3日、新町河川公園まつりが開かれました。このまつりは、平成15年度の同公園の完成を機に、昨年からの地元実行委員会が始めたものです。和太鼓の演奏やマス釣り大会など、趣向を凝らしたイベントの中で特に人気を集めたのがアマゴのつかみ取り。公園脇を流れる白口川で、自然の石で5メートル四方に仕切った「いけす」に放たれたアマゴは25匹ほどに育った百匹。参加した子供たちは歓声と水しぶきを上げながら懸命にアマゴを追いかけました。



競い合うように咲く様は豪華の一言

人は、「きれいな花しよぶと情緒ある寺町通りの景観はとても調和がとれていてすばらしいですね。」と話していました。

平和の思い受け継がれ…「アンネのバラ」開花

市民グループさんさん会は5月27日、和天山ジュピターホール前で植栽を行っている「アンネのバラ」の鑑賞会を開きました。

「アンネのバラ」は、つぼみが赤、花はオレンジからピンクへと変化するバラで、ベルギーの育種家デルフォルグ氏がナチスのユダヤ人迫害を受けて亡くなったアンネ・フランクの形見として作出し、アンネの父オットー氏に贈ったもの。日本にはオットー氏により昭和47年に10本が伝えられ、平和のシンボルとして全国に広まりました。

さんさん会は、平成15年に「さんさん会」の名にちなんで33本をジュピターホール前の花壇に植えて手入れを続けています。



大輪の花を咲かせた平和のシンボル

声



中尾幸雄さん (養父市)

「たまたま近くに来たついでに鑑賞会に参加しました。バラはいろとりどりの花を咲かせていてとてもきれいです。平和のシンボルとしていつまでも美しい花を咲かせてほしいものです。」



さんさん会会長 谷田直樹さん (枚田区)

「毎年秋にバラの苗を約70人に贈っています。市になって希望者を募った時、約3百人の応募があり、現在その方々に順番に贈っています。市内の他、豊岡市や舞鶴市の方にも贈りました。今では贈った先々できれいな花を咲かせていると思います。このバラの花を通じて平和について考えてもらえればと思います。」